



アカシア俳句会



夏季俳句会 (令和四年六月) 「句報」兼題：梅雨 (子季語含む) ほか夏の季語

「選句」 赤文字：特選

「投句」作品

作者

阪神イラツ梅雨の窓拭く内らから
梅雨の日や老徒歩クラブ赤い靴
五月闇筆箱横に花母からだ
岩壺克哉
岩壺克哉
岩壺克哉

多秀
ハルジオン摘みて危ぶむ水揚がる
ハレルヤと唄って出かける薔薇の園
タケノコを食(ハ)める幸せ老いの膳
吉澤志保子
吉澤志保子
吉澤志保子

恵展福克博

以
八六路起伏歩みて梅雨の月
友と駆けし校庭囲むアカシア樹
地球儀の裏は人泣き炎荒れ
西村敏治
西村敏治
西村敏治

圭由

徳崎
みささぎにみどりまぶしい阜月ばれ
西田 稔

佑福克多志秀

佑崎
撮り鉄のレンズ曇りて走り梅雨
石突(杖の先)や滑る石庭梅雨ながし
戸堂博之
戸堂博之
戸堂博之
貿易風午睡を誘う椰子の影
戸堂博之
戸堂博之
戸堂博之
背負子に積むだけ積んで夏の山
戸堂博之
戸堂博之
戸堂博之
落石や雪溪滑りて音途絶え
戸堂博之

福多志
多

圭展永
さくらゆき友逝き梅雨の頃となり
友逝きて音信(メール)途絶えて夏の宵
山家由紀
山家由紀
山家由紀
カメちゃんとおぶ友失せて梅雨に入る
山家由紀
山家由紀
山家由紀
照る若葉見つつ思ふはウクライナ
山家由紀
山家由紀
山家由紀
石段に薔薇の花びら駐車場
山家由紀

茂恵徳多志

敏多
道沿いの方影消して迎えつゆ
シヤンソンの余韻交じりの走り梅雨
加龍恵子
加龍恵子
加龍恵子
田植えぎわ畦道行きて幼な日に
加龍恵子
加龍恵子
加龍恵子
腰かがめ早苗差す手に水光り
加龍恵子
加龍恵子
加龍恵子
くちなしの雨粒とどめなほ白し
加龍恵子

敏徳多
崎博

亘惠 慰霊碑を濡らして梅雨は南から
 以由秀 宿坊に一夜さの句座河鹿聴く
 志 蝸牛愛されなめくじ嫌われる
 亘徳由志 花わさび一束くれし山の人
 亘以由 汗拭ふ箱根の関に蔭を得て
 佐藤多恵子
 佐藤多恵子
 佐藤多恵子
 佐藤多恵子

展秀 すそ波にかくれ緑の梅雨の島
 吉田以登
 山雨止み青葉それぞれ日に光る
 吉田以登
 葉さやぎの音のさやかに朝散歩
 吉田以登
 川土手の森を娘と行く梅雨のあと
 吉田以登
 夏シャツの毎日歩く我八十路
 吉田以登

亘惠崎博秀 崎 やれ急げ梅雨晴間縫いウオーキング
 野本展子
 雨風に弾む紫陽花手まり唄
 野本展子
 牛蛙もういいよーと答えたり
 野本展子
 母の日に心込めたるハンバーグ
 野本展子
 さるかにの猿は木の上梅実採り
 野本展子

由多博 自転車の子等がしまなみ初夏の風
 都 福仁
 北の初夏家や野に花散歩道
 都 福仁
 梅雨晴れ間花も良いけど木の緑
 都 福仁
 年老いて語る友無く梅雨の日々
 都 福仁
 瀬戸の夏朝日夕陽のバケイショ
 都 福仁

佑茂以 山腹の貧しき家にも鯉のぼり
 中野亘子
 亡夫(つま)のこと恋ふる句遣し友逝けり
 中野亘子
 緑蔭を選びて来しと笑顔かな
 中野亘子
 蛇苺苔の間の間に古利かな
 中野亘子
 雨坊主竿に整列梅雨に入る
 中野亘子

茂福永 草木の生氣あふるる梅雨湿り
 網 佑子
 濡れ若葉小径耀き風そよぐ
 網 佑子
 草刈るやふと白蝶の低く舞ひ
 網 佑子
 水たまり嬉々とジャブンと遠き日の
 網 佑子
 今朝の凧世に疫・戦無きが如
 網 佑子

圭克 久々に満月煌々梅雨晴れ間
 前田秀一
 圭佑敏永 梅雨ごもりスマホや見入る指遊び
 前田秀一
 香の雫急須汲み分け新茶かな
 前田秀一
 赤き薔薇照れをり妻の傘寿の日
 前田秀一
 佑敏展徳多 ウイズコロナ元おしゃれ揚羽蝶
 前田秀一

【選句についてお願い】

- 一、お一人五句選句して頂き、その「句番号」をお寄せください。
- 二、選句の内「特選句」一句の番号の後ろに「特選」と記入して下さい。
- 三、「特選句」について、五〇文字以内で句評をお願いします。

投句、選句者氏名

() 内は選句者略号(五十音順)

網 佑子(佑)、岩崎悦子(崎) 岩壺克哉(克)、加龍恵子(恵)、楠野圭子(圭)、斎藤優子(優)
佐藤多恵子(多)、佐藤茂弘(茂)、戸堂博之(博)、中野亘子(亘)、中野陽典(陽)、西田 稔(稔)
西村敏治(敏)、野本展子(展) 前田秀一(秀)、三木徳彦(徳)、都 福仁(福)、宮本智乃(智)
元永悦子(永)、山家由紀(由)、吉澤志保子(志)、吉田以登(以)

編集人 前田秀一